



最も親愛なる姉妹の皆さま

私たちは、新たにもう一年、**四旬節の季節**が与えられ、主は、私たちが祈りにもっと専念するよう励まされています。四旬節は、素朴なこと、ささいなもの、隠されているものに立ち戻るための最適な時期です。そして、そこに潜んでいる誘惑から、私たちの心を清めます。これらのことは、何度も呼びかけられて来たことです。死と病、絶望と恐怖に脅かされる状況の中であって、私たちは、希望の光、神の愛と赦しの運搬者であるよう呼ばれています。そして、その光は、私たちが祈りと静けさと期待に満ちた観想で育まれたときにのみ輝きます。

私たちが今から始めようとする四旬節において、神のいつくしみの豊かさによって私たち自身が変わることを確かなものとする私たちの決意を新たにしましょう。

教皇さまの四旬節のメッセージは、**断食、祈り、施し**を提案しています。これらは、私たちの回心の条件と表現です。

私たちのうちに住んでおられる愛の神秘に私たちを目覚めさせてくれるのが、**祈り**です。心から心へ、友から友への対話です。私たちが神の言葉に魅了されればされるほど、私たちは、私たちに対する神の限りない慈しみを体験することができます。祈りは、私たちが誠実な信仰、生きた希望、そして活発な愛に基づく活動を体現することを可能にします。

信仰は、私たちにキリストによって示された真理を受け入れ、神、そして私たちの兄弟・姉妹の前で、神の証し人となるように呼びかけます。

教皇フランシスコは、祈りにおいて、専心と沈黙の中で、私たちの使命の課題と決定を照らすインスピレーションと内的光として、**希望**が与えられていると語っています。

す。ある場合、希望を与えるには、笑顔で、励ましの言葉をかけ、あるいは、単に傾聴する時間を設けて、心配事を傍らにおいて他者に心を向ける親切な人です。

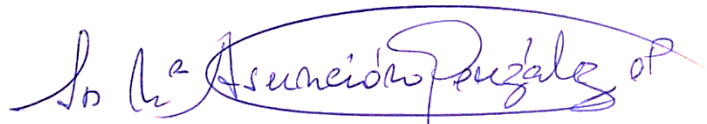
施しは、必要としている人たちに私たちの心といつくしみを注ぐために、抑制の体験として生きることです。断食は、私たちを束縛するすべてのものから解放し、極貧者や必要としている人びととそれを分かち合うことです。私たちが彼らのために何をするにしても、私たちは、神ご自身のためにそれをしているのです。最も貧しい人びとのニーズが私たちにどのような影響を与え、それに応じてどのように行動するかを問い直してみましよう。私たちがもっている小さなものは、それを愛によって分かち合うと、私たちの生活を変え、幸せを生み出します。教皇さまが語る共有は、私たちがより人間的なものにしますが、蓄積することは、私たちが自己に閉じこもることになり私たちを残酷な人にする危険性を伴います。

愛に基づく行いは、私たちの生活に意味を与える賜です。愛に基づく行いをして生きる四旬節は、COVID 19のパンデミックのために不確実な未来を伴う、苦しみ、私たちの時代の災難の犠牲者、見捨てられた人、苦悩の犠牲者の世話をすることを意味します。

四旬節を過ごす姉妹たち、神の言葉に照らされて私たちの生活を見直し、私たちの心を変え、より人間的な方法で生きることを学びましよう。神は、近くにいて私たちの生活を癒したいと思っています。ですから、回心はつらいことではなく、真の喜びを見い出します。

私たちの母であるマリアに、神の娘としての自由を喜んで生きることを学ぶために、決意を保たせ、この四旬節に目覚めさせ、自己を無にすることができるように頼みましよう。

姉妹的抱擁と祈りを添えて、



総長、ソール マリア・アスンシオン・ゴンザレス, O.P.